

ハンカムツアー新聞

vol. 5

ナマステー、みなさんこんにちは！実行委員の水野桃花です。
今回は【インドの女性のおしゃれ】についての新聞です。
みなさんも現地を着るときのイメージをしてみてくださいね！！♪

《Ⅰ、民族衣装の種類》

・サリー

これは一番有名です。一枚ずつ生地の違いで細長い布を様々なスタイルで体を包み込むようにまといます。最も一般的なスタイルは、5m 程度の長さの布をペチコートにはさみながら腰に巻き、残りを肩の上に乗せかける方法です。このサリーは、世界で一番古い民族衣装で500年も歴史があるそうです、、、(;´Д`)
インドの女性はサリーをハレの日だけでなく普段着として着ています。



・チョリ

チョリは、女性がサリーを着用するときの下に着るブラウスのことです。中東やエジプトのダンスであるベリーダンスの衣装としても着られています。

・ガーグラ

ガーグラとは、インド人女性が身に付ける、ギャザーやフレアーが多いボリュームのあるロングスカートのことです。裾にはカラフルでかわいい刺繍がされていてかわいらしいです。このガーグラと、チョリ、サリーは3点セットで着用します。



・レヘンガ

レヘンガはサリーとは違い、ブラウスとロングスカートに分かれています。華やかなパーティや結婚式の衣装として、サリーと並んで多くの女性に好まれています。



・サルワール・カミーズ

サルワーズ・カミールは、主に南インドの女性が着用する民族衣装です。トップス（カミーズ）、パンツ（サルワール）、ショール（デュパッタ）の3つからなります。流行りによって丈の長さは変わりますが膝より下が定番です。



《Ⅱ、メヘンディ》

メヘンディとはヒンディー語で、「ヘナ（植物の葉を乾燥させ粉末にしたもの）で肌を染める」「ヘナで肌に模様を描く」ことを意味します。現在日本でもヘナタトゥーとして人気が出てきています。

メヘンディには邪悪なものから身を守る力や、幸運を呼ぶ力があると信じられており、メヘンディを描くために必要な植物・ヘナは、幸運の女神ラクシュミーが最も愛する植物と言われていて、祭り事やめでたいことがあると女性達は必ずメヘンディを施します。模様にもそれぞれ意味が込められており、結婚式やマタニティなどでは欠かせないものとされています。



みなさん、いかがだったでしょうか？

着てみたい衣装や色などのイメージは膨らんだでしょうか？今回のツアーでは民族衣装を購入する機会を作ろうと思っています。皆で着てインド人の気分になりましょう！では、また次回の新聞でお会いしましょう!(^^)!